

新宮山彦ぐるーぷ 第1802回

南奥駆道(行仙宿)21世紀の森(の連休前点検巡視)

実施日：平成27年04月19日(日) 曇りのち一時晴

参加者：川島 功、田中稔昭、大門健一、栗原真行(上記4名前泊)、

沖崎吉信、畑林清子、高階美根子、梶野照雄、塩川真武、橋本 梓(亀の子会)。車回送者：大江徳子。 9名他1名。

18日、浦向・實利行者祭り・直会に参列後、川島・田中さんが行仙宿へ。雨水貯槽3個を据え、栓をして雨水が貯まるようにする。

栗原氏笠捨山往復し16時頃戻る。16時半大門・田中氏行仙宿着。行仙宿山小屋前泊組は、川島代表、田中さん、大門氏に、尾鷲総合病院内科医・栗原さんが事前に「新宮山彦ぐるーぷ」ホームページを見て合流され、翌日の我々の行動にも参加すること。同氏は日本100名山を踏破された登山家でもあり、新宮山彦ぐるーぷ行事に初参加となる。

大門氏準備の美味しい鍋(鴨肉・アサリ等)料理に、つついお酒がすすむも21時前には就寝。

04月19日(日) 室内14℃、外10℃。

新宮市・沖崎・大江車は、21世紀の森東屋で大阪市・塩川車と合流し、大江さんが行仙宿補給路登山口へ回送して下さり、紀北町・高階さんと堺市・梶野さんが合流。

当日組の6名が8時20分頃に小屋に到着後、川島代表の挨拶と本日の参加者の紹介のあと、行者堂にて願行を行う。

佐田ノ辻を出発し、10分ほど歩いたところで旧通信路(沖崎・梶野・栗原さん3名)と奥駆道の二手に別れて行動する。

奥駆道には信仰心の気持ちで色々な石塔やお地藏さまが建てられている。

9時に檜の大木の裾にある「八大金剛童子」の石塔に合掌し歩みを進め、笠捨山を正面に左手には電波反射板が設置されているのが見える広い場所で小休止を取る。

そこから少し下って笠捨山(1352m)へ登って行くが、先頭を行く女性陣は健脚揃いで引つ張って貰う様な感じで山頂に辿り着き、20分程休憩を取り女性陣からお菓子の提供がある。

山頂には道祖神が建立されているが、礎石周りの補強のため今年の5月連休に、行仙宿山小屋に家族で泊まり込み作業を行うとの話で、既にコンクリート練りのため、雨水を溜める設備も近くに準備されているのが見える。



前泊組



佐田ノ辻出発前



笠捨山山頂

道祖神を背に右方向に下っていくが、道は昨年11月29日に登り、行程で出っ張り根を切ったことを思い出しながら、葛川辻で旧通信路を行ったグループと合流した。

沖崎・梶野さんの水場調査報告では、水場は問題無いが、径の途中大きな崩れが2カ所と径の傷み箇所が多く、手入れするには日数と人手が必要とのことであった。

地藏岳に向かう途中に、行仙宿近くにある送電線鉄塔から伸びた送電線を受ける鉄塔が尾根にあり、周りは討伐され地肌が露わになつていたのが気に掛かるところである。

そこを過ぎると登り道と成り、青木さんが設置した道案内板を手掛りに、杉、檜、高野槇、石楠花などの落ち葉を踏みながら脚を進めば、行く手を遮るかのような険しい岩場が現れる。上から降りている鎖はまだ新しく、2連で所々結び目を施し滑り止めの配慮が嬉しい。その鎖を片手に持ち、岩の端に片方の手や足を掛けてよじ登ったり下つたりの連続で、途中には「槍ヶ獄」の石塔があり、また鎖を頼りに岩場を登って行くことなる。

地藏岳（1250m）の山頂手前では、児嶋氏作製の道案内板を梶野さん持参の充電式インパクトドライバーで取付け、作業も捗る。

地藏岳直下には名前の由来となったかは定かではないが、石地藏が祀られている。地藏岳を越え少し下つた処の尾根で昼過ぎとなり、各自適当な場所を選んで荷を下ろして昼食。食後、女性陣からチョコレートを買って貰い口に入れると、甘さが疲れを癒し、ほっとする。



地藏岳の垂直鎖場



地藏岳への道案内板取付け



昼食時の寛ぎ



はみ出した倒木の枝切り

30分後身支度を調べて、痩せ尾根を通り登ると四阿之宿跡へ。なだらかな下り道が続く「拌み返し」の道標を過ぎて暫く行くと「国道425号」右手方向を示す板があり、「檜之宿跡」の石碑を見て下つて行くと、倒木の枝が歩行するに支障となる高さがあり、沖崎さんが鋸で切り落とす作業を行った。

暫く下り道が上がって行くと尾根に送電線の鉄塔が見えたが、太陽が時折顔を見せ気温も上昇し、鉄塔の近くで小休止となり水分補給や行動食を摂る。

また、荷物を担いで10分程歩いたところで香精山（1121m）に出て、下つて行く途中に縦半分に分かれた杉倒木がいく手を遮っていたが、橋本さん、田中さんが下から支え役、沖崎さんが鋸で切り役となり撤去した。

登り下りを繰り返しながら歩いていると、背負った荷物の重さが段々と太股の筋肉が痛み出し脚の運びを鈍くする。梶野さんが杉枝を杖代わりにするのを探してくださり、それを利用して歩行を進めた。道の所々に、青木さんが作成された方向板を目にする。天候が晴れている日でも有り難いが、雨や濃霧の天候の場合でも目立つ

色合いで、道を迷わずに行ける標識は助かる。多分、ご自身が迷った場所に設置されているのであろうと考えながら脚を進める。

途中、標識の矢印方向と文字が逆さまになっているのを沖崎さんが補正作業と点検確認を進めて行った。

複数の大きな岩が壁になって「貝吹之野」で最後の小休止を取って体を休めて畑林さんから、鎮痛消炎塗薬の提供を受け患部に塗込むと少し痛みが治まり歩ける様になるのが嬉しい。

枝打ちされた枯杉枝を踏みながら「塔ノ谷峠」を過ぎるとまたもや倒木があり、沖崎さんが鋸で慣れた手つきで切断し、橋本さん、塩川さん、畑林さん、高階さん4人掛かりで道横に移動させた。

青木さんの事前確認歩行では、倒木は処理し問題無しの報告であったが、数週間間に発生したものと考えられ、改めて自然の力と不断の対応が必要と考えさせられる事象である。

そこから更に下り道を行くと、「玉置神社」方向と「21世紀の森」方向の分岐点に出て、右手の「21世紀の森」へと下り、森林植物公園の手前の東屋に辿り着き、全員無事に下山し記念撮影となる。

そこには、沖崎車と塩川車があり、それぞれ2台に分乗し国道425号線を辿り、行仙宿山小屋補給路登山口に向かった。

今回は、道標取付け2カ所笠捨山・地藏岳と方向名称の補修1カ所、倒木切断3本を行い、休憩を含めて6時間45分の行程であったが、昼頃から雨の予報が天候にも恵まれて、少し気温の上昇と共に汗ばむ陽気であった。自分的には、ペンチ、プライヤ、ドライバ、木ネジ、針金、斧を用意したが使用する出番はなかったが、他の持物もあり軽量化の工夫が必要で体力も考慮すべき点が反省点であった。

行動タイム

佐田ノ辻 8:45 → 旧通信路と奥駆道の分岐 8:50 → 笠捨山鞍部前小休止 9:45 → 10:15 笠捨山 10:35 → 10:55 葛川辻 11:05 → 地藏岳 11:45 → 12:05(昼食) 12:30 → 12:55 四阿ノ宿跡 → 13:25 送電線鉄塔付近 13:35 → 香精山 13:40 → 倒木処理 13:45 → 14:10 貝吹之野 14:25 → 塔ノ谷峠 14:30 → 倒木処理 14:40 → 21世紀の森分岐 15:05 → 15:30 21世紀の森東屋駐車場 15:40 → 16:15 行仙宿山小屋補給路登山口
(記 大門健一)



ゴール地点・21世紀の森東屋



道を遮る倒木の切出し



貝吹之野